

II 一般質問 発言の要旨

福祉と教育の連携について

北野 伊津子 議員

問 発達に課題を抱える子どもが増加傾向にあり、切れ目のない支援と充実したサポート体制が求められています。厚生労働省では、地域の中核的な療育支援施設として、児童発達支援センターの設置を求めています。本市はどのように考えているのか、またサポートブック、サポートファイルの活用状況についてお聞きします。

答 3障害に対応しつつ、重層的かつ専門的支援を提供できるような支援体制を構築すべく児童発達支援センターの設置に向けて検討してまいります。障害児の特性や接し方を知るためのサポートブックや保護者が発達記録を書き留めておくサポートファイルを、障害児をとりまく縦、横の支援連携を推進するために役立ててまいります。

市内小学校、中学校の運動場、体育館の 状態と改良について 金銅 成悟 議員

問 小中学校の運動場・体育館共に、管理が十分に行き届いていない。①小学校の運動場は、土が固く締まった上に砂が浮いた状態であり、窪んでいる箇所も多く見受けられ、足を取られたり、滑ったりして転倒し、けがの原因になる。子どもの安全の為、真砂土の補充と予備の土を配置すべきではないか。②郡山西中学校を除く4中学校の体育館の床も老朽化しており、表面が傷んだ状態になってきている。体育館床の年次的な改修を要望。

答 ①運動場の土・砂の補充については、定期的に真砂土を補充し、保全を図っていききたい。②学校施設の老朽化が進む中、限られた予算であり、優先順位を付け施設の修繕・メンテナンスを図れるよう取組んでいきたい。

学科指導教室「ASU」について

堀川 力 議員

問 不登校状態にある児童生徒の復学への支援の場である学科指導教室「ASU」は、郡山城跡公園内の城趾会館を利用している運営であるが、施設は老朽化しており、災害時に倒壊の恐れが懸念される。早急に移転場所の選定・確保を要望する。今後、子供たちの命を守り、安全を確保するため、市としてどのように考えているのか伺う。

答 城趾会館は貴重な県指定文化財であり、改修工事には相当の費用と事業期間を要します。文化財としての保存を勧奨しつつも、早期改修は困難であると考えられます。ASUへ通学する子ども達の安全を確保するため、異なった場所で運営することが課題であり、引き続き移転に適した場所・施設の検討を早急に進めていくものです。

学童保育について

田村 俊 議員

問 学童保育所施設の整備、補助金申請事務の軽減、支援員確保について、どのように考えているか。学童保育所を二つに分割の場合、補助金はそれぞれに交付されるか。

答 一人当たりの面積が基準に満たない施設については、学校の余裕教室や公共施設等の利用による保育スペースの拡充を検討しています。書類作成の相談等により補助金申請事務の軽減を図り、支援員研修において県と連携し、支援していきたいと考えております。二つに分割の場合の補助金は、以前より1.2倍の額を補助しています。

・他の質問項目：奈良モデルによる大和郡山市の対応について

認知症予防について

林 浩史 議員

問 認知症の方が益々増える中、認知症予防・早期発見に向けての取組みが急務です。当市の推定される認知症の人数と、市の予防策、特に、歩く・食事などの生活習慣病予防についてお聞きします。また、認知症患者が行方不明になった際の発見に繋がる策として、GPS装置の靴が有効と考えますが、お考えをお聞きします。

答 市内の認知症の方の推計は、高齢者の7人に1人といわれ約3900人、生活習慣病予防の取組みとして身体面で、すこやか100万歩運動、食生活面でいつもの食事に野菜をプラスする「ベジタベプラス」を推奨しています。またGPS装置は行方不明時に有効です。市の助成はありませんが、介護サービスでご利用いただけます。

地域包括支援センターについて

地域防災について 徳野 衆 議員

問 ①第1包括の高齢者人口は国基準を遥かに超す9千人で、早期分割すべきだがどうか。第2包括が片桐地区公民館に移設となれば、支援が一層行き届かない矢田地区に第5包括を設置すべき。②国は地区レベルでの防災計画が必要とし、防災士の活用、計画参加等も啓発している。本市各地区の防災計画・訓練と防災士の活用・連携は。

答 ①矢田地区における地域の包括的支援体制の相談窓口として、地域包括支援センターの設置を検討します。②地区防災計画は進んでいない。防災士の方は地元防災活動で活躍されている。筒井小で、居住区割、非常食調理、簡易トイレ設営等の避難所運営訓練を実施したが、今後も地域の災害特性を踏まえた住民参加型訓練を検討する。